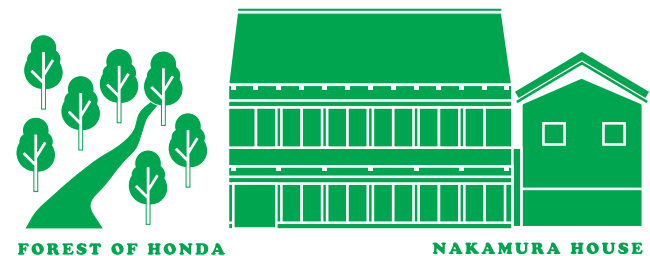


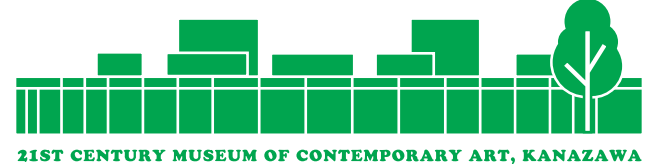
カナザワ ケンチク サンポ vol.1

カキノキバタケ・サトミチヨウ・ミズタメマチ・
シンタテマチ・ホンダマチ・デワマチ

金沢建築散歩 柿木畠・里見町・水溜町・新賢町・本多町・出羽町



FOREST OF HONDA NAKAMURA HOUSE



21ST CENTURY MUSEUM OF CONTEMPORARY ART, KANAZAWA



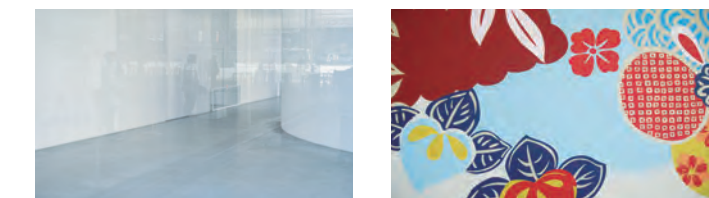
SHINTATEMACHI GREAT PEOPLE OF KANAZAWA MEMORIAL MUSEUM



KAGAYUZEN



D.T. SUZUKI MUSEUM



01 展示空間 Gallery Space

SANAによる新しい展示空間の提案。

SANAは、この美術館で展示空間との間に廊下を挟むことで展示空間を独立させ、その展示空間を自由に巡ることができる展示方法を提案しています。また、可動式間仕切りによって、交流ゾーンや企画展・常設展のエリアを自由に变化させることが可能です。最終的なデザインが決定されるまでSANAでは膨大なストーリーが行われました。



館内にはデザイナーによる様々な椅子が点在しています。是非、探してみてください。



03 独立した展示室 Gallery

展示室の大きさに違いがあるのはなぜ。

今までの美術館では大部屋を間仕切りで仕切るのが主流でしたが、当館では様々な大きさの展示室を独立したボックスとして配置しています。これはアーティストに自分の作品にあった展示空間を自由に選んでもらうためです。



05 タレルの部屋 Blue Planet Sky

タレルの部屋でのんびりと金沢の空を堪能。

四季を通じて、「空の移ろい」を静寂と光の中で体験できます。季節や時間によって常に変化する空間を、時を忘れて楽しめます。



04 エレベーター Elevator

大人にも子供にも大人気！
業に乗っているようなエレベーター。

昇降路のないエレベーターで、開放的な吹き抜けを演出しています。油圧のシリンダー自体は細いけれど、その周りの円筒状のフレームで制震性を確保しています。



06 鏡面の床 Floor

天井や床を見ると周りの景色が反射。

美術館内の天井や床は鏡面仕上げになっています。これは、外部の景色を内部にも引き込む工夫で、館内外の雰囲気と味わえるように配慮されています。



07 外壁のガラス Wall

びっくりするほど透明な美術館。

美術館の外壁はすべてガラス。なんと122枚の曲面ガラスに囲まれています。「透明、明るい、開放的」が美術館の基本コンセプトとされたことから決められたデザインです。



09 緑の橋 Green Bridge

一年中緑の壁があるらしい。

白の世界の中に突然表れる緑の壁。元植物学者であるアーティストのバトリック・プランによる作品で、一年を通して緑が見れるように考えられています。



08 迷路のような通路 Passage

迷路のような館内。向こうが見える一本道も。

展示空間を取り囲むように配置された迷路のような通路は、様々な表情や景色を見せる動線です。通路や展覧会ゾーンからも外構や中庭が見え開放的で気持ちのいい空間となっています。



10 跡地の記憶 Memory

記憶をデザインに取り込む。

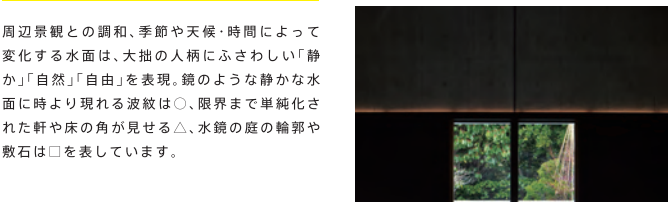
この美術館は、金沢大学付属小・中学校の跡地に建てられました。当時の樹木を敷地内に再配置したり正門の石垣や記念碑を残すことで、記憶を新しいデザインに取り込んでいます。



06 水鏡の庭 Water Mirror Garden

「静か」「自然」「自由」を表現。

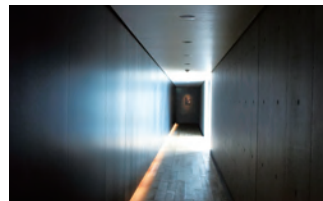
周辺景観との調和、季節や天候・時間によって変化する水面は、大拙の人柄にふさわしい「静か」「自然」「自由」を表現。鏡のような静かな水面に時より現れる波紋は○、限界まで単純化された軒や床の角が見せる△、水鏡の庭の輪郭や敷石は□を表しています。



08 思索空間 Contemplative Space

自分と向き合い考える空間。

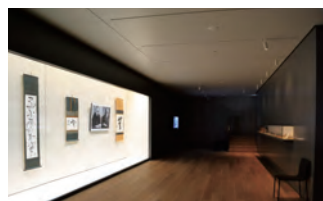
自分と向き合い「考える」空間。今は四畳半を意識した正方形空間に半量の可動の椅子が置かれ、中心の空間は方丈となっています。静かで心地よい緊張感を持つこの空間から水鏡の庭、石の壁、本多の森や音が一望できます。



01 内部回廊 Interior Corridor

光に導かれる。

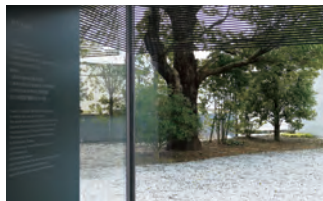
真っ直ぐにのびる回廊は暗く、足下の淡い光が入館者を奥へと導きます。この回廊は参道のような役割を果たしています。



03 展示空間 Exhibition Space

これは一体何なのか。

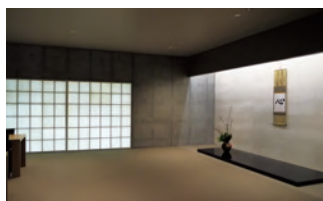
最小限の展示品が解説なく展示されています。知ることより感じる、理解するより体得する空間。



02 玄関の庭 Vestibule Garden

クスノキとの出会い。

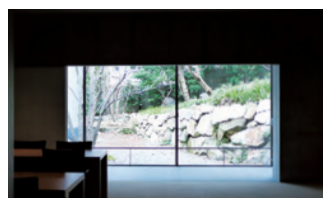
正面の大窓から広がる玄関の庭。回廊途中にガラスのアルコーブを設けることで、その先のコンクリート壁を意識させない効果を生み出します。



04 学習空間 Learning Space

障子の間仕切りが空間を左右する。

大拙を学ぶ場所。障子を開放すれば露地の庭、閉鎖すれば二侯和紙を太鼓張りにした障子の輪郭が浮かび、室内に心地よい緊張感を演出します。



05 露地の庭 Roji Garden

△口の石。

谷口吉生デザインの抽象的なインド産御影石の蹲(つくばい)があります。湧噴する水は水鏡の庭とサイフォンでつながっています。



07 借景 Borrowed Scenery

本多の森を背後に。

瀬戸内海産の錆石が規則的に積み上げられ、壁面の陰影が様々な表情を見せます。石垣の背景は、本多の森を借景としています。



09 隣接する松風閣庭園 Shofukaku Garden

静寂で深遠な庭園空間。

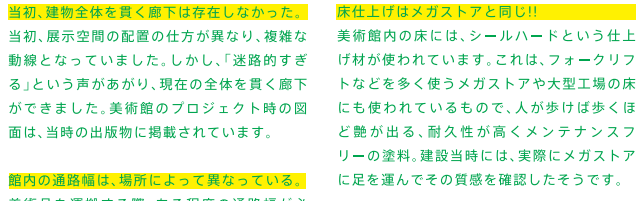
中村記念美術館や松風閣庭園などの歴史文化施設を散策路で結び、周辺の回遊性を高めています。周辺に多くの大木を植生し、奥行きと広がりを感じさせる静寂で深遠な庭園空間です。



10 緑の小径に続く散策路 Walking Path

本多の森へ続く。

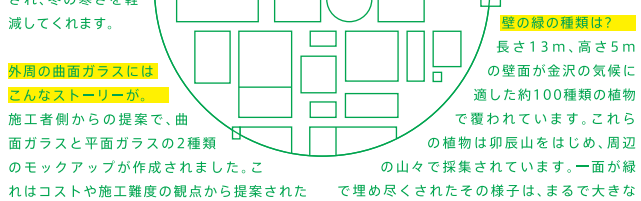
途切れた側壁では、静かな水音のなかで水鏡の庭と対峙します。楠の大木を眺めることもできます。さらに歩を進めると本多の森へと続いています。



02 玄関の庭 Vestibule Garden

敷地の隆起は全て計算されている。

敷地内には4mもの高低差が存在しますが、敷地内には一番低いところから美術館を見ると、下から見上げるようになっていくので、マウンドをつくらなくても視線を導き、建物の威圧感を感じないように配慮されています。



04 学習空間 Learning Space

あゝの柱、実は太さが違う。

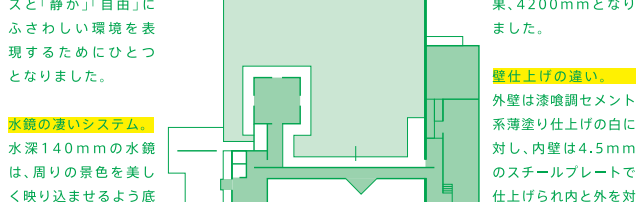
館内の柱は9mピッチ内でランダムに配置されています。実は、その柱の太さはすべて同じではなく、意図的に太さが異なり、エントランスホールなどの大空間では柱が太くなっています。



06 水鏡の庭 Water Mirror Garden

水鏡の波紋は計算されている。

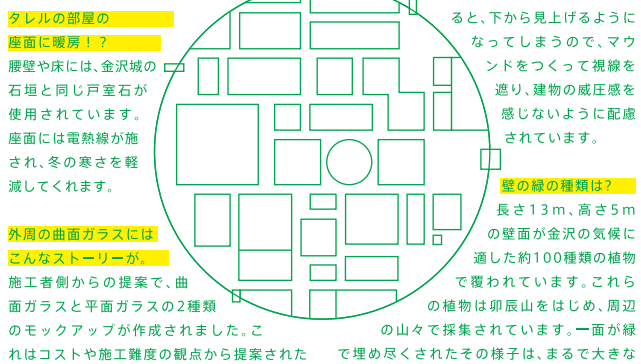
水鏡の庭の水面に発生する波紋の間隔は約3分。これは波紋が起り、消えるまでの時間が計算されています。当初、複数の波紋が計算されましたが水鏡の空間全体のバランスと「静か」「自由」にふさわしい環境を表現するためにひとつとなりました。



06 水鏡の庭 Water Mirror Garden

水鏡の美しいシステム。

水深140mmの水鏡は、周りの景色を美しく映り込ませるよう底石に黒い石が採用されました。水鏡により思索空間は、水の中に浮いている様に映ります。水鏡の底には900mm×900mmの花崗岩パネルが敷設され、それらは四本の支柱で支持されています。石との隙間から水が供給・循環され、水は銅イオンを用いた濾過循環システムによって浄化されています。



05 タレルの部屋 Blue Planet Sky

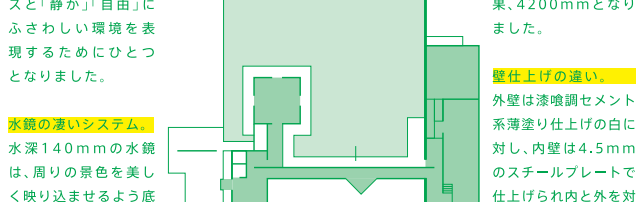
タレルの部屋でのんびりと金沢の空を堪能。

長さ13m、高さ5mの壁面が金沢の気候に適した約100種類の植物で覆われています。これら植物は卯辰山をはじめ、周辺の山々で採取されています。一面が緑で埋め尽くされたその様子は、まるで大きな額縁に自然を描いたようなアートです。



06 水鏡の庭 Water Mirror Garden

大きな石垣を配置することで、建物全体がコンパクトに見えるよう表現しています。石垣の高さは背景となる本多の森を最も美しく見せるために、何度も検討を重ねられた結果、4200mmとなりました。



06 水鏡の庭 Water Mirror Garden

外壁は漆喰調セメント系薄塗り仕上げの白に対し、内壁は4.5mmのスチールプレートで仕上げられ内と外を対峙させています。

クスノキのために設けられた玄関の庭。

内部回廊の三角アルコーブは、既存のクスノキを見せるように最適な位置に設定されました。玄関の庭の敷石は、無機質な下石とすることでクスノキを強調させる効果があります。

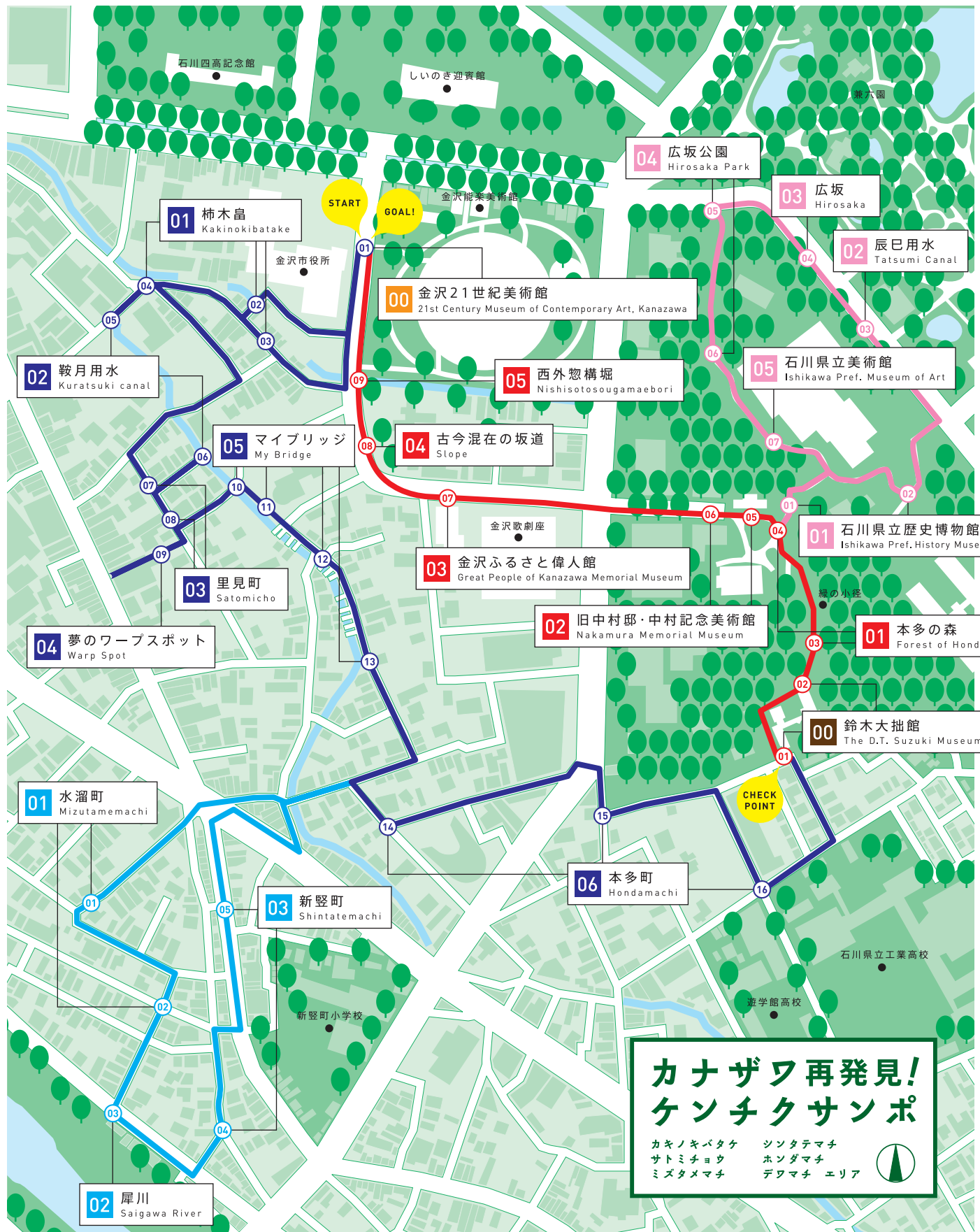
関係者だけが知る、ここだけのウラ話を一挙大公開。これであなかも21世紀美術館ツウ、大拙館ツウ、ですよ。

さあ、カナザワとあるいてみよう!

KANAZAWA KENCHIKU SANPO ORIGINAL COURSES

カナザワケンチクサンポは発見を重ねる小さな旅行です。町も水も森も、日々歴史を重ねています。日常、気がつかなかった風景や物事に出会い、自分自身も金沢の歴史とひとつになる。まちを歩くのではなく、まちと歩く。それだけでまちがいつもと違う表情をみせるかもしれません。

時間の目安	徒歩約45分	徒歩約30分	徒歩約30分	徒歩約30分
-------	--------	--------	--------	--------



カナザワ再発見! ケンチクサンポ

カキノキバタケ サトミチョウ ミズタメマチ シンタテマチ ホンダマチ デワマチ エリア



00 金沢21世紀美術館
21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

丘の上にごっこつとはえる金沢21世紀美術館、見る方向によって表情を変えるにくいやつ。

01 金沢21世紀美術館は、建築家・妹島和世/西沢立衛(SANAA)が建築界のノーベル賞といわれるプリッカー賞を受賞した代表作。金沢市中心部に位置しており、世界で最も来客数が多い円形の美術館です。当館は「世界の同時代の美術表現に市民と共に立ち会う美術館」を基本コンセプトとして建てられました。外壁に曲面ガラスを採用し、外部から内部の様子を伺うことができます。そのため中に入ると抵抗を感じさせない、誰もがいつでも立ち寄ることのできる公園のような美術館として国内外問わず多くの来場者から人気を集めています。



01 柿木島 Kakinokibatake



02 鞍月用水 Kuratsuki Canal

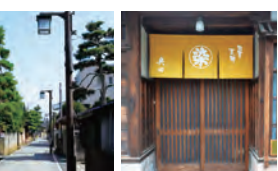
生活に密着してきた用水がここに。

03 用水はマチを栄えさせる大切な鍵。ひとつづつ表情を比べてみるのも楽しみ方の一つです。ここは春には桜が咲いて白く染まる用水が見られます。04 段を降りて座ってみる場所もあり、触れるくらい近く水と風。元は金沢城の防壁のために1599年に構築された鞍月用水。城の防火用水や薬種油を採る水車の動力としても利用されていました。

04 夢のワープスポット Warp Spot

ワープ酔いにご注意を。

05 過去と現代を行き来できる夢のスポットもあり。ワープ酔いにご注意を。ここで里見町へのタイムスリップ記念を1枚。



05 マイブリッジ My Bridge

必見マイブリッジ。

06 用水に架かる橋の名にも注目です。こちらの橋は里見橋、見渡すとまた蔵がチラホラ。蔵の立ち並ぶ用水を想像すると、うーん見てみたい! ⑩ 目に留まらないはずがないこのドームは、元々プラネタリウムだったのよ、という近所のおばあちゃんの証言あり。⑪ たくさん並ぶマイブリッジ! 橋の上に庭を作ったものや、木の素材を使ったこだわりのマイブリッジも必見です。⑫ 昔の堀の跡がかくれんぼ。



01 水溜町 Mizutamemachi

言葉や写真じゃ伝えられない心地よさ。

02 こんなところに昔の名残を感じる小道があります。犀川の埋め立てによってできたこの土地には水溜と呼ばれる場所がありました。その名残を町名に残したこの場所、1997年にこまなみに指定されました。⑬ 城下町金沢では珍しい、ずーっと真っすぐ真っすぐ通った道。



02 犀川 Saigawa River

用水の水はここから。

03 狭い小道を抜けて広がった視界の先には犀川。実は今まで見てきた用水の水はここから来ていたのです。室生犀屋の記念碑は、まちも川も眺められる木陰の元に、ここでは今やめずらしい木製カープミラーがお仕事中。



02 旧中村邸・中村記念美術館 Nakamura Memorial Museum

金沢の茶道文化に出会えます。



01 本多の森 Forest of Honda

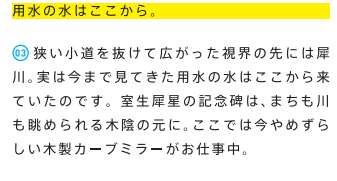
森と水と風の楽園。

02 金沢散策は「立ち止り・振り返る」これ基本。気持ち浄化されるのは気のせいではございません。狭い小道を抜けたら一面にあふれる緑。こちらの壮大な木々たちを鈴木大拙館の借景のため貸出中。緑を付けてウッドデッキの先にあるものは・・・⑭ 水の音に誘われて辿りつく森への入り口。さあ本館のまなみに進むべし。深緑と陽光のコントラストは必見です。



02 旧中村邸・中村記念美術館 Nakamura Memorial Museum

金沢の茶道文化に出会えます。



01 本多の森 Forest of Honda



03 新登町 Shintatemachi

静かなるニューホットスポット!



05 西外惣構堀 Nishisotosugamaebori

金沢城を守った堀の跡。

06 西外惣構堀は、金沢城を防御するために内と外の二重で築かれた惣構堀の一部。当時、堀の管理人である惣構番人によって、堀へのゴミ捨て・周囲の竹林伐採などが禁止され大切に守られてきました。



03 金沢ふるさと偉人館 Great People of Kanazawa Memorial Museum

有名な金沢の偉人たちとめ見。

04 金沢ふるさと偉人館は、金沢の代表的な偉人について資料や著作などにより、その生涯や業績を紹介しています。その偉業と生き方を知ると共に、先人たちの研究の拠点となることを目的としています。館には数石に案内され奥へと進める素敵スポットもあり。



03 金沢ふるさと偉人館 Great People of Kanazawa Memorial Museum

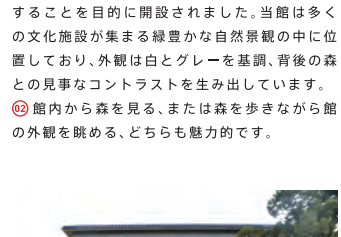
有名なお土産で宴会などもできます。美術館もあり、金沢の茶道文化に出会えます。中村記念美術館は、金沢で酒造業を営んでいた実業家で茶人の中村栄俊氏が「美術館は一人のものではなく国民の宝である」という信念のもと創立。⑮ 涼しげな水や風の音が聞こえる庭園から緑の並木道へゆっくりゆったり進みます。



03 広坂 Hirotsaka

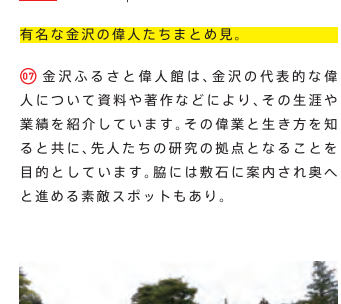
気持ちのいい森の坂道。

04 まっすぐに延びる緩やかな坂道は気持ち良い風の通り道。自転車でも走るの最高なです。金沢という街の長い歴史を見守ってきた石垣の寛大さにあなたは何を思いますか?



01 石川県立歴史博物館 Ishikawa Pref. History Museum

元陸軍兵器庫の博物館。



01 石川県立歴史博物館 Ishikawa Pref. History Museum



02 辰巳用水 Tatsumi Canal

兼六園へ通じる現役水路。



02 辰巳用水 Tatsumi Canal

兼六園へ通じる現役水路。

03 11 kmもの長さを誇る辰巳用水は、一度兼六園内を経たあと市街地へと流れています。町の人々は、用水を通して見たことない兼六園を思い描いていたのでしょう。



04 古今混在の坂道 Slope

古今混在の坂道を抜けて金沢21世紀美術館へ。



04 古今混在の坂道 Slope



04 古今混在の坂道 Slope

05 昭和初期の「旧中村邸」。予約すればこの立派なお屋敷で宴会などもできます。美術館もあり、金沢の茶道文化に出会えます。中村記念美術館は、金沢で酒造業を営んでいた実業家で茶人の中村栄俊氏が「美術館は一人のものではなく国民の宝である」という信念のもと創立。⑮ 涼しげな水や風の音が聞こえる庭園から緑の並木道へゆっくりゆったり進みます。



03 広坂 Hirotsaka

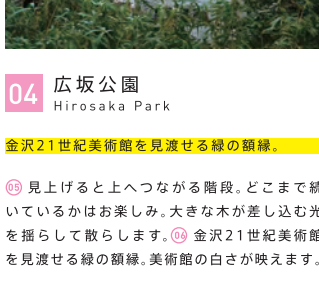
気持ちのいい森の坂道。

04 まっすぐに延びる緩やかな坂道は気持ち良い風の通り道。自転車でも走るの最高なです。金沢という街の長い歴史を見守ってきた石垣の寛大さにあなたは何を思いますか?



04 広坂公園 Hirotsaka Park

金沢21世紀美術館を見渡せる緑の願線。



04 広坂公園 Hirotsaka Park



05 石川県立美術館 Ishikawa Pref. Museum of Art

古いものから新しいものまで。

※こまなみとは?・・・歴史的な価値を有する武家屋敷、町家、寺院などの建物や歴史的特色を残すまちなみを保存する区域、1994年金沢市が制定。

MACHI & KENCHIKU PICK UP!